

冬がっこコンクールを終えて

発行機関 神代地域運営体
発行責任者 古郡朝男
神代字野中清水 292-1
TEL 44-2112



2月12日たざわこ芸術村のご協力のもと温泉ゆぼぼのホテルロビーにおいて、「冬がっこコンクール」を開催しました。

当日は、お天気にも恵まれ、温泉ゆぼぼへの宿泊客や演劇鑑賞にお見えの方々に揃って参加して頂きました。出品された方は地元神代の女性の方々が主で、45名の方々から3部門にそれぞれに出品を頂き、いぶりガッコ部門には39品、かき漬け部門25品、その他部門には48品と多くの出品を頂きました。

審査には、宿泊客、地元旅館業者からそれぞれの部門毎に各家庭の自慢の味を賞味していただき、アンケート用紙にご感想を記入し審査していただきました。当日は、約300名の来場があり、にぎやかな催し物となり、お客様の中には、是非購入したいと言う方が多く、「味の良さ」を感じていただいたと思います。

多くのアンケートを頂いた結果、「いぶりガッコ部門」の最優秀賞に小瀧綾子さん（本町）と津嶋敏子さん（国館）に「かき漬け部門」の最優秀賞に高橋博子さん（森腰）、「その他部門」の最優秀賞には佐藤正子さん（下道）にそれぞれ決定しました。

今後は、アンケート内容を確認し、地元ホテル、旅館等で利用していただけるよう、「自慢のあじ」に磨きを掛けて行きたいと思えます。出品して下さい皆様ほんとうにありがとうございました。

【 産業振興支援部から 】

アンケートの中から（ご感想）

・各家庭でこんなにも味に違いがあるのに驚きました。中には少し苦手な香りの物もありましたが、美味しい物が多かったです。私は甘みのあって余り塩がきつくない大根の味がする物が好きでした。 東京都 30代女性

・仕事で現在は秋田市住まいですが、元は大阪出身です。なので、塩味の薄いものを選び、甘さを感じる漬け物を選びました。しかし、どれも各家庭の味を感じとれ、楽しく参加させて頂きありがとうございました。 秋田市 30代男性

・柿は地域にたくさんあります。それが現在食料になっていることがありがたいこと、すごいことと感じていました。いぶり大根は色目の良さプラス食べやすさ。いぶり大根は色々あります。やはり他の人へのアピールとしては、色目も大事だと思います。 大仙市 60代以上女性

・着色している物が多いので、自然の色づけを工夫して頂きたい。（味道楽も添加剤となりますので控えて）。塩っぽさが残るものが多いので塩加減を工夫して（甘さは控えて良いです）レモンとかゆず、からし、本来この地域にない物で味付けするのはさけて、あくまで地域資源にこだわる）ゴーヤ漬けはとても技術が高い！！ にんにく漬けもおもしろい。 美種町 50代女性

・薫製のおいがきつい「いぶりがっこ」は苦手ですが、甘口で薫製のおいが控えめで食べやすいものが多かった。県外出身の私には口に合いました。 秋田市 30代女性

・一般に甘味が強く、砂糖類が使われていると思いますが、都会の方では好まれないようです。もっと自然の甘味など工夫した方が良いと思えます。 仙北市 60代以上女性

・いぶされた後のいぶした感じがしっかりと残って（香りと味）尚かつ、酸っぱくなく甘さも残っているものを選びました。ごちそうさまでした。 岩手県 40代男性

・どれもこれも美味しかったです。甘めの物が好きなので、そういうものを選びました。 岩手県 50代男性



山の芋の加工作品募集

コンクール第2弾
地場産物加工品コンクール
3月20日（日）開催予定

今、産業振興支援部では、転作を中心とした農業支援のあり方で試行錯誤をくり返している最中です。

その一端として、このたび「産業総合研究所」のご協力を得まして、一般の方、加工業者（菓子など）や料理研究に熱心な方々を対象に「山の芋を使った食べ物」を創作して頂き、地場産加工品コンクールを実施することといたしました。

主催者としては、神代地域の皆さんから大いにご協力をいただきながら、コンクールを盛り上げて頂きたいと願っているところです。また、作品の出品にあたってはあまり肩を張らず、どうぞ「こんなものが出来ました」の気持ちで多くの皆さんからのご出品をよろしくお願いいたします。

なお、出品部門はあえて設けません。今回は「山の芋の粉末」を使用した作品を多く募集します。たとえば、お菓子、うどん、そば、パスタ、おやき、お好み焼きなどいろいろ考えられると思います。出品をお考えの方には、事務局で山の芋の粉末（500g入り）を提供いたします。出品の手続きにつきましては、44-2112（運営体事務局）までご連絡願います



粉末「やまの芋」

除雪ボランティア隊大活躍



例年になく豪雪で神代地区においても方々で除雪対応に苦労している姿が見られましたが、ようやく天候も安定期に入った様子で、まずは「ほっと」しているところではないでしょうか。

我が運営体でも除雪ボランティア隊の活躍ぶりが、さきがけ新報でも紹介されるなど、地域の高齢者や一人暮らし家庭への支援でも大きな役割を果たしてくれました。

何分、初めての試みでもあり、当初支援部でも心配しながら見守ってききましたが、特に事故もなく、受益者からは「おかげさまで助かりました」との声も多く聞かれる結果となりました。

今後、更に検討を重ね、より効果的で安心感の持てるボランティア活動の展開をめざして参りたいと考えますので、よろしくご理解とご協力をお願いいたします。

【福祉支援部から】

『神代若者会発足』運営体と協働活動へ

去る、2月16日（水）に臨時役員会を開催し、神代地区若者会有志で結成された『神風会』と第1回協議会を行いました。出席者は神風会が会長、副会長6名の計7名と運営体からは、会長、副会長、事務局10名で話し合いが進み、将来の神代を担っていく立場として頑張っていきたいなど、とても頼もしい発言が印象に残った実りある会でありました。

今後は、運営体に登録手続きを済ませ、役員の中から数名が理事として各支援部に所属し、活動を共にしていくこととなります。

運営体としましても新風が吹き込むことにより、これまで以上の神代の活性化に向けた事業の拡充が期待出来るものと喜びを大にしているところです。